

いのちを大切に

み仏さまの教えを一言でいえば『命を大切にしない』であります。自分の命はもとより、生きとし生けるすべての命を愛し、とうとび、大切にやる心こそみ仏さまの真心にかなう心であります。これを大慈悲心と申します。

実は、いのちは地球にしかありません。広い広い宇宙、はてしなく広い宇宙に、たくさん星が輝いています。しかし、いのちのある星は地球だけです。宇宙の中に、いのちがあるかもしれないと言われていても、まだ発見されていません。何という不思議でしょう。なんとという奇跡でしょう。どんなに科学が発達しても、いのちをつくることはできません。科学が発達して、宇宙ロケットに乗って、人間は月に行くことができます。大したことですが、本当に大したことですが、月には空気も水もなく、花も咲かなければ蝶も舞わない、鳥も蛙も歌わない。月は石だらけの死の星で

した。宇宙に浮かぶ青い地球を見て、月面に下りたの隊長は感激して、地球は宇宙のオアシスだ、宇宙のパラダイスだと叫んで、神さまに感謝のお祈りをささげたそうです。そうです。地球こそ宇宙の天国、極楽浄土なのです。そして地球の大自然は、さまざまに生き物の命を守り育ててくれています。このいのちのとうとさをさとって、みんなで仲よくして、この地球を平和な極楽浄土とすることが、人間の本当の道であることを説いたのがお釈迦さまの教えです。みなさんいのちを大切にしましょう。

ひでこちゃん

お寺の施設に知恵おくれの子が入所してきました。名前をひでこちゃんといいます。

ひでこちゃんは台所のお仕事やお掃除が上手にできました。お母さんが言いました。「ひでこは毎日学校から帰ると、水甕の水を言いつけもしないのに」「お母さん水汲んでやるわね」と言いつて汲んでくれるのですよ。ほ

かに何人も子どもがいても、水甕が空になっていても言いつけなければ誰も汲まないのに、ひでこだけですよ」

梅雨の雨が続いた夜のことです。流しになめくじがたくさん出てきました。和尚さんがひでこちゃんに頼みました。「塩をかけてなめくじを殺して、流してしまっておくれ

ひでこちゃんは、よいこ返事をして台所に行きました。しばらくして「和尚さんおやすみ」と言いつて寝ました。和尚さんが台所に行つてみると、なめくじは一匹もいませんでした。ところがそのあくる朝が大変でした。女の子たちが部屋で大騒ぎしているので、どうしたのかと行つてみると、ひでこちゃんは缶詰の空き缶に水を入れて、ナメクジを飼つておいたのだそうです。そのナメクジが夜中に這い出して、部屋中がナメクジだらけになり、それを踏みつけた子が悲鳴をあげたりして、大変な騒ぎをしていたのです。「ひでこちゃんだめじゃないか。塩をかけて殺してなめくじと言つたのに、どうしてなめくじなんか飼つておいたの?」

と和尚さんがとがめますと、「ひでこちゃんもなめくじを飼つておいたのよ。なめくじはなめくじだからなめくじを飼つておいたのよ。なめくじはなめくじだからなめくじを飼つておいたのよ。」

きてるもん。飼つておけばだんだん大きくなるでしょう。」と言つてひでこちゃんの答えに、和尚さんは思わずふきだしてしまいました。それと一緒に、何ことが起きたかと思つて集まつてきた男の子たちも女の子たちも、みんなどつと笑い出しました。

お母さんもお腹をかかえて笑いが止まりません。その時、みんなが笑いころげている中から、むせぶような悲しい泣き声が聞こえてきました。ひでこちゃんがひとり、部屋の隅にうずくまつて泣いているのです。その泣き声が和尚さんの心を打ちました。「みんな笑うのをやめなさい! 笑つちゃいけない!」和尚さんの大きな声に、みんなも笑うのをやめました。和尚さんは泣きむせているひでこちゃんの肩を抱いて「ひでこちゃん、ごめん、笑つて悪かつたね。そうだよ、なめくじだつて殺せばかわいそうだよ。けれどもなめくじは、はい出してしまつてから飼えないんだよ。そのかわりに金魚をあげようね。」

と、和尚さんは金魚鉢から小さな金魚を一匹、ひでこちゃんの空缶に入れてやりました。空缶の中で泳ぐ金魚を見